



— 地域と共に走り
続けた100年 —



100年の歴史にありがとう

フラワー長井線鉄道鮎貝駅延伸 100周年イベント



鮎貝駅

—フラワー長井線鮎貝駅延伸 100周年のごあいさつ—

フラワー長井線が白鷹町の蚕桑、鮎貝両駅まで延伸されたのが西暦1922年、大正11年12月11日で、今年100周年を迎えることをお祝いし、一言ご挨拶を申し上げます。

今から、100年前を振り返ってみますと鉄道が鮎貝駅に延伸した翌年の西暦1923年、大正12年9月1日、ちょうど昼頃、関東大震災があり関東地方は大変な災禍に見舞われたそうです。私の亡き祖母から聞いた話ですが、白鷹町でもかなりの揺れがあったと言っていました。

当時、白鷹町は養蚕が盛んで、荒砥、長井市には製糸工場があり、どの農家も1年間に4回から5回は蚕を置いていたと言われていました。私の実家(高岡)でも1年に5回は置いており寝るところも狭く、お蚕様と言われ、農家の収入源となっていました。私と姉は小さい頃から「ひきしよい」(蚕の選別作業)の手伝いに行ったものです。

また、関東大震災の影響もあり、その当時は鉄道を利用して木材が関東地方に盛んに出荷された写真が残っております。町の経済活動の中心は、鉄道を利用した養蚕、木材産業だったようです。

私の小さい頃、長井市のあやめ公園にサーカス団を見学に行く際も、満員列車に乗って連れて行ってもらった記憶があります。

来年は、荒砥駅まで100周年です。利用拡大の観点から沿線住民の方々にフラワー長井線に目を向け乗ってもらうためにも、盛大な記念イベントをやりましょう。

また、現在は高校生、専門学校生、通勤等にと利用されており、今後も沿線住民の足として永遠に残していただきたいと思っております。

フラワー長井線鉄道 100周年事業実行委員長 鮎貝区長 井上善晴